

からかさ木

平成七年九月五日号

丘地区の傘木町内に、「からかさ木」と呼ばれる木があります。

木が立っている場所は、巻狩りで訪れた源頼朝よりともが、木を傘がわりに雨宿りした所だと言われており、地名の由来にもなっています。

今回は、からかさ木を管理している望月忠男さんから、お話を伺いました。

鎌倉時代、源頼朝は、富士山のみもとで巻狩りをよく行いました。巻狩りとは、けものを四方から取り巻き、捕らえることから、そ

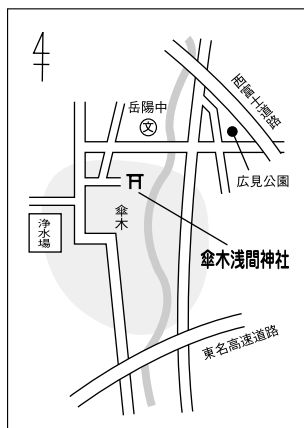
う呼ばれています。

巻狩りの途中、たくさんの家来を連れられた頼朝が、ある村落に入りました。すると、空が急に曇って、雨が降ってきました。

たまたま近くに大きな木があり、頼朝はその木の下に駆け込みました。まるでからかさのように枝を広げた木は、人が雨宿りするのに好都合の木でした。

頼朝は、そこを通りかかった年寄りに、「この村の名は、何と言うのか」と尋ねました。

すると年寄りは、「この村には、まだ名前がついてい



ません」

と答えました。そこで頼朝は、

「この木は、からかさのかわりになってくれた。村の名は、これから『からかさ木』とし



▶ からかさ木

たらどうじゃ」

と言いました。

年寄りも早速、村人にこの話をしました。

そして、この日から村の名は、からかさ木村と呼ばれるようになったのです。

望月忠男さん（傘木）

昭和四十一年の台風二十六号で、先代の木は倒れてしまいました。今の木は、先代の根元から生えていた四代目なんですよ。

この木はタブの木といって、枝が自然とからかさのように広がります。以前は、このあたりにも多く生えていて、製紙の原料としても使われていたそうです。

「からかさ木」は、伝法の一万歩コースのポイントにもなっていて、最近訪れる人も多くなりました。